

「Z-SQUARE」で好評連載中の「カコモンにTRY!」の特別版として、数ある難関校のなかから中学受験コースの教科担当者が選んだ、差がつく「この1問」をご紹介します。まだこれらの問題が解ける必要はありませんが、この機会に難関中学の入試問題を体験してみてください。



国語 担当者が選ぶこの1問

灘中学校 一日目 四

- 四 「笑い」という言葉はいろいろあります。次の各文の「笑い」にあてはまる言葉を、それぞれ指定された字数のひらがなで答えなさい。ただし、同じ言葉はくり返して使えません。
- 1 悪人どもをこらしめて、正義の味方はかかと「笑い」を残して去って行った。
 - 2 弟に注意しても「笑い」笑いをうかべるだけで、全く聞き入れようとしな。
 - 3 彼は、社長のそうおもしろくもない話に「笑い」笑いをうかべてこたえている。
 - 4 彼は、ばくを見くびっているのか、ふんと鼻で「笑い」笑いをから近寄ってきた。
 - 5 とても簡単な問題をまちがえて「笑い」笑いをうかべた。

「笑い」に関する問題

「笑い」のニュアンスをとらえよう

人は楽しいときにだけ笑うわけではありません。一口に「笑い」といっても、さまざまな状況において、いろいろな気持ちで人は笑います。例えば、3で、社長のおもしろくない話に対してうかべるのは「あいそ笑い」。これは「相手に気に入ってもらおうとする、わざとらしい笑い」です。設問を解くには、まず人間には複雑な心情があると理解することが大切。そのうえで、各設問の短い文から、描かれている状況を的確に把握します。そして、ふさわしい心情を特定し、文字数を手がかりにしながら、適切な笑いを表す言葉を導き出していきます。

差がつく! 学習アドバイス

社長に対してあいそ笑いをうかべるような大人の世界の話は、小学生には理解しにくいと感じになるかもしれません。しかし、中学入試の国語では、必ずしも子どもの心情読解だけが問われるわけではなく、大人の心情や、登場人物のせりふの裏にある複雑な心情の読み取りが求められることも珍しくありません。Z会の教材では、毎月さまざまな文章を取り上げて、読解の練習を繰り返していきます。その中で繊細な心の機微を表すいろいろな言葉が出てきます。そのような言葉を自分で使いこなせるように、一つ一つ確実に身につけていきましょう。



算数 担当者が選ぶこの1問

南山中学校女子部 8

- 8 次のルールにしたがって、中学1年生16人ですもう大会を行います。
- 《ルール1》常に2人で対戦します。
 - 《ルール2》8組の対戦がすべて終わってから、次の対戦の組み合わせを先生が決めます。そのとき、勝ち数がまったく同じ人どうしが対戦することとします。
 - 《ルール3》全て勝っている生徒が1人になったら終了します。
- (1) この大会は、何回戦まで行いますか。
(2) 大会が終了したとき、ちょうど2敗した人は何人いますか。

差がつく! 学習アドバイス

問題の状況を正しく読み取ることを普段から意識しながら学習に取り組みましょう。また、読み取った状況を考えやすく整理する力も算数ではとても大切です。整理の仕方には、図にまとめる、表を作る、グラフをかくなどさまざまな方法があります。Z会中学受験コースの学習に取り組むときには、正解できた問題でも解説をしっかりと読みましょう。もし自分の考え方が違っていたら、両方の考え方が使えるように、しっかりと理解しておきましょう。

ルールを正しく理解したか問われる問題

状況を正確に読み取って、丁寧に整理しよう

難しい計算やひらめきではなく、与えられたルールを正しく読み取って考える読解力や論理性が試される問題です。特に《ルール2》がポイントで、日常生活でよく出合う「リーグ戦」や「トーナメント戦」の形式ではないので、思い込みで誤った解釈をしないように注意が必要です。

このようなルールを読み取って考えるタイプの問題では、「こうすれば必ず解ける」といった方法はありません。初めの何回かの対戦の様子を書いてみるなど、具体的な状況を確かめて、丁寧に整理していくことが大切です。



理科 担当者が選ぶこの1問

久留米大学附設中学校 4 問1

- 4 次の文を読み、以下の各問いに答えよ。
- ものが温まるときは、温まった位置に熱が伝わっており、熱の伝わり方には①伝導・②対流・③放射の3つがある。
- 伝導は、温度の異なる物質が接触しているとき、温度の高い方から低い方へ直接熱が伝わる伝わり方である。物質の種類によって伝導のしやすさは異なり、これを熱伝導率という。主な物質の熱伝導率を表1に示す。熱伝導率の値は、数値が大きいほど熱が伝導しやすいことを表す。
- 対流は、温められた物質そのものが動くことによって熱を伝える伝わり方である。
- 放射は、可視光線や赤外線などの電磁波(光)が物体に吸収されることによっておこる熱の伝わり方である。

物質	熱伝導率
銅	0.94
ガラス	0.0014
空気	0.000056

- 問1 次の(1)～(3)の文は、①伝導・②対流・③放射のどの現象について述べたものか、最も深く関わっている現象をそれぞれ1つずつ選び、番号で答えよ。
- (1) 太陽が昇ると、地面が温まる。
 - (2) 昼間は陸地の方が海水よりも温度が高いので、海から陸に向かって海風が吹く。
 - (3) 魔法瓶の容器は二重になっており、その間は真空なので、中に入っている飲み物の温度が変化しにくい。

差がつく! 学習アドバイス

今回は3つの熱の伝わり方についての問題を取り上げました。伝導・対流・放射の身近な例はいろいろとありますので、ぜひ探してみてください。家の中には、食卓やお風呂、部屋の窓など、さまざまな場所

理科と結びつくものがあります。身近な現象について疑問に思ったことは、理由や原理について調べてみるとよいでしょう。3・4年生の理科では、基礎的な知識をしっかりと固めること、身のまわりの自然や事象などに興味をもつことが大切です。体験を重視し、自然科学などに関するニュースを見たり、興味をもった事象について調べたりすることをおすすめします。

熱の伝わり方について考える問題

身近な事象と理科を結びつけて考える

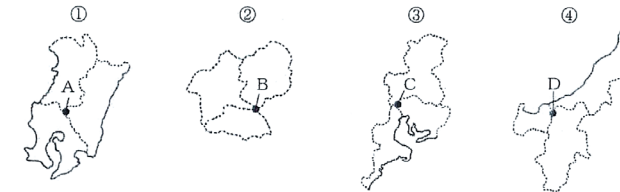
理科の入試では、単に知識を問うだけでなく、身近なものや現象と理科を結びつけた問題がよく出題されます。ここでは、熱の伝わり方についての問題を取り上げました。Z会中学受験コース理科ではまだ学習していない内容ですが、知識がなくても問題文について理解すれば解ける問題です。問題文中の伝導・対流・放射についての説明から、(1)～(3)がそれぞれの現象と関わっているかを考えてみましょう。



社会 担当者が選ぶこの1問

雙葉中学校 2 問1

- 2 次の図①～④はそれぞれ、隣接し合う3つの都道府県を示しています。また、図中のA～Dは3つの都道府県の境界が重なっているところです。図をみて、後の問いに答えなさい。なお、図の縮尺はそれぞれ異なり、島は省略しています。



問1 図①～④のうち、3つの都道府県の面積の合計が最も大きいものと、最も小さいものをそれぞれ選び、番号で答えなさい。

ふだんから地図に親しんでおこう

都道府県学習の基礎となる県の形や位置に関する問題は、中学入試ではよく出題されています。今回は、隣接し合う3つの都道府県面積の合計を比べる問題を取り上げました。面積が大きい、または小さい順に並べたときの上位にくる都道府県は、①～④のどの図にふくまれるでしょうか。特徴のある県の形や半島の形を手がかりにして、①～④の場所を特定し、その大きさをイメージできるかどうかポイントで、ふだんから地図に親しんでいるかによって差がつく問題です。

差がつく! 学習アドバイス

中学入試では、8つの地方区分や都道府県ごとに、気候や地形などの特徴、農業や工業に関する問題が幅広く出題されます。「都道府県面積が大きいのは、1位が北海道、2位が岩手県」と覚えるだけでなく、ふだんから地図帳などで、都道府県の位置や特徴を確かめながら学習していくとよいでしょう。中学受験コースでは、4年生で8つの地方の特徴やそれぞれの県の様子を学びます。さらに6年生で、地方ごとの自然・産業や各都道府県の特徴をもう一度詳しく学習することで、学びを深め、入試に備えるカリキュラムになっています。